

第1回 定例会

WEB 10時 ～ 13時

演 題

「 今、求められるリカバリー処置 」

講 師

公益社団法人 日本歯科先端技術研究所 監事

志賀 泰昭先生

北日本口腔インプラント研究会

略 歴

- 1 9 8 0 東京歯科大学卒業
- 1 9 8 4 東京医科歯科大学大学院 博士課程修了
- 1 9 8 4 志賀歯科医院 勤務
- 1 9 9 5 同 院長就任
- 2 0 0 9 医療法人伸正会 志賀歯科医院 理事長



今、求められるリカバリー処置 」

公益社団法人 日本歯科先端技術研究所 監事
志賀 泰昭

昨今のインプラント技術の進歩に伴い、インプラント治療の適応症例は飛躍的に拡大したと言えるだろう。さらに、インプラント治療は歯科医のみならず、一般の患者層にも当たり前に受け入れられるようになってきた。しかしその反面、インプラント治療に関連した訴訟も増加の一途をたどっていると聞く。そこで、インプラントを取り巻く様々な技術に皆が注目している現在だからこそ、次なる視点が歯科医には必要なのだと筆者は強調したい。

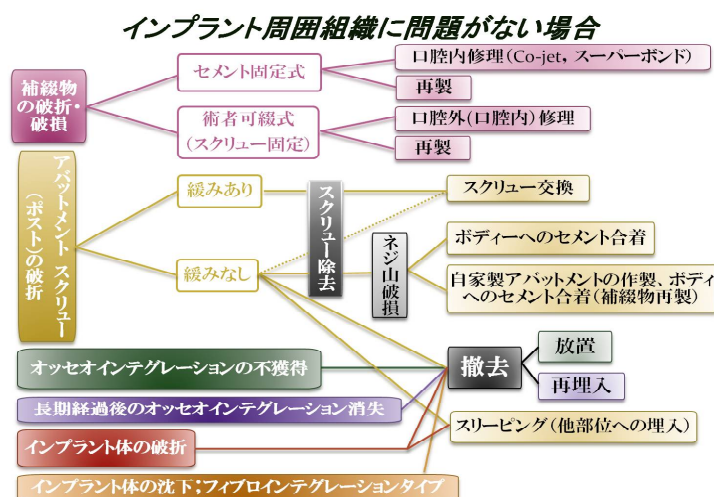
皆さんもご存知の通り、日本の高齢化はさらなる進行が予想されている。当然のことながら、インプラント予後不良症例に対するリカバリー処置が必要となる場面に遭遇する機会も増え、歯科医は長期的視点に立った判断力とともにコミュニケーションの原則（傾聴、共感、受容）に則った患者との信頼関係構築力の真価も問われるようになる。

今回はリカバリー処置を取り上げるとともに、口腔ケアが実践しにくい高齢者に起こりがちな残存歯の2次カリエスならびに歯根破折などを考慮した治療計画の必要性についても検討する。さらに、筆者の長年の治療経験からワンピースインプラントの是非についても論じられればと考えている。インプラント予後不良症例に対するリカバリー処置については、インプラント周囲組織に問題がない場合（図1）とインプラント周囲組織に問題がある場合（図2）に大別して説明を行う。まず、インプラント周囲組織に問題がない場合として、補綴物の破折・破損、アバットメントスクリー（ポスト）の破折、オッセオインテグレーションの不獲得、長期経過後のオッセオインテグレーション消失、インプラント体の破折、インプラント体の沈下（フィブロインテグレーションタイプ）に対する処置が考え

られる。さらに、審美性を考慮した補綴材料であるハイブリットレジンあるいはセラミックでは回避し難い破折・破損のリペアについての技工テクニックを解説するとともに、バイコンデンタルインプラントシステムの優位点について強調したい。

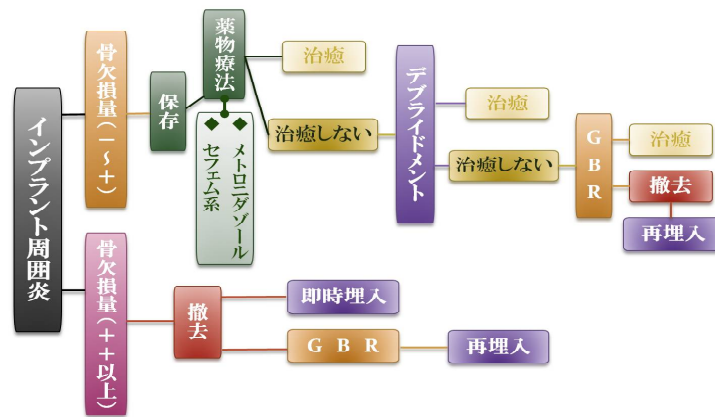
今回は各症例を時系列にて解説することにより、それに応じた処置方法をまず体系化して習得していただきたいと考える。もちろん、全ての症例がこの体系化した処置方法に準ずるとは言えないが、基本を踏まえたうえで応用範囲を広げていただければと考えている。次に、インプラント周囲組織に問題がある場合としては、骨欠損量（－～＋）、骨欠損量（＋＋以上）に対する処置が考えられる。

今回の講演により、皆さんがインプラントの埋入により単に欠損補綴を行う歯科医から、長期的な視点と判断力に基づいたリカバリー処置を行える歯科医として飛躍するお手伝いができれば幸いである。



【 図 1 】

インプラント周囲組織に問題がある場合



【 図 2 】

MEMO